

○今年度後半のCSTI木曜会合において、各MS目標の継続・終了を決定する5年目評価の観点を明確化していくとともに、現在の研究開発の実施状況を踏まえた後半5年の期間に反映すべき制度の改善点についても洗い出していく。

運用評価指針

4. 研究開発の実施方法

【実施期間】

○CSTIは、研究開始時点から5年目にMS目標に対する進捗状況、今後のMS目標の達成の見通しを評価し、MS目標の達成に向けた研究開発(プログラム)の継続・終了を決定する。

スケジュール

(10月～)	(1～2月)	(R6年度)
○ PD報告(木曜会合・公開) —10/5 目標5、11/16目標4 —11/30目標1, 6、12/21目標2, 3 —年度内、目標7, 8, 9を予定	○ PD報告を踏まえて木曜会合において制度全体について議論	○CSTI5年目評価の実施(木曜会合・公開)／PDによるヒアリング(P)

想定される主な論点

○5年目評価「MS目標に対する進捗状況、今後のMS目標の達成の見通し」の観点として、例えば以下を想定。

- 2030ターゲット達成指標の明確化・詳細化
- 後半5年間における絞込みとスケールアップの考え方
- 出口戦略、他の施策等との連携の考え方

○後半5年の期間に反映すべき制度の改善点として、例えば以下を想定。

- 国際的なベンチマーク分析の強化
- 相乗効果のある目標間連携の検討
- 共通課題についての横串での検討、好事例の横展開

ムーンショット型研究開発制度の基本的考え方について

- 未来社会を展望し、困難だが実現すれば大きなインパクトが期待される社会課題等を対象として、人々を魅了する野心的な目標(以下「ムーンショット目標」という。)及び構想を掲げる
- 最先端研究をリードするトップ研究者等の指揮の下、世界中から研究者の英知を結集し、目標の実現を目指すこと(国際化)
- 我が国の基礎研究力を最大限に引き出す挑戦的研究開発を積極的に推進し、失敗も許容しながら革新的な研究成果を発掘・育成に導くこと
- 進化する世界の研究開発動向を常に意識しながら、関係する研究開発全体を俯瞰して体制や内容を柔軟に見直すことができる形に刷新するとともに、最先端の研究支援システムを構築すること
- 研究成果を円滑に社会実装する観点から、多様な人々との対話の場を設けるとともに、倫理的・法制度的・社会的課題(ELSI)について人文社会科学を含む様々な分野の研究者が参画できるような体制を構築すること
- 将来の事業化を見据え、オープン・クローズ戦略の徹底を図ること

平成30年12月20日
一部改定 令和2年2月27日
総合科学技術・イノベーション会議
健康・医療戦略推進本部

スケジュール

(10月～)

- PD報告(木曜会合・公開)
—10/5 目標5、11/16目標4
—以降、順次報告

(1～2月)

- PD報告を踏まえて木曜会合において制度全体について議論

(R6年度)

- CSTI5年目評価の実施(木曜会合・公開) / PDによるヒアリング(P)

CSTI5年目評価における戦略推進会議とCSTI/CSTI有識者議員の役割

○ムーンショット型研究開発制度に係る戦略推進会議とCSTI/CSTI有識者議員との関係

	戦略推進会議	CSTI/CSTI有識者議員
役割	<p>○戦略推進会議は、次に掲げることを任務とする。</p> <p>1. <u>原則として、毎年度、研究推進法人から進捗等の報告を受け、MS目標の達成に向けて、全体俯瞰的な視点から、プロジェクト構成の考え方、資金配分の方針等に関して承認・助言を行う。</u></p> <p>2. <u>研究開発成果の橋渡し、民間との連携、官民の役割分担を踏まえた適時の民間投資の呼び込みを含め、研究開発成果の社会実装に向けた方策を助言するとともに、研究開発成果の社会実装等に関する支援を行う。また、国際連携を促進するための助言も行う。</u></p>	<p>○CSTIは、<u>MS目標を決定する。</u></p> <p>○CSTI有識者議員は、<u>研究開発の進捗状況等について、ムーンショット型研究開発制度に係る戦略推進会議(以下「戦略推進会議」という。)から原則として毎年度報告を受け、本制度全体の推進に関し、大局的見地から助言する。</u></p> <p>○CSTIは、<u>研究開始時点から5年目にMS目標に対する進捗状況、今後のMS目標の達成の見通しを評価し、MS目標の達成に向けた研究開発(プログラム)の継続・終了を決定する。</u></p>

○両会議体等の役割を踏まえつつ、より効率的な運用を図るべく、戦略推進会議の運営方法について事務局にて検討。